

平成19年度総合防災訓練の実施概要

応急対策室

1. はじめに

「平成19年度総合防災訓練大綱」に基づき、政府総合防災訓練が9月1日の「防災の日」に、静岡県総合防災訓練とあわせて静岡県伊豆市土肥会場等において実施されました。

今年度の訓練は、東海地震予知対応型訓練として、東海地震観測情報及び東海地震注意情報の発表を受け、政府の警戒宣言が発令された後、静岡県御前崎沖でマグニチュード8.0の地震が発生し、静岡県及び山梨県において震度7を観測、また、神奈川県、愛知県及び長野県において震度6弱以上を観測し、家屋の倒壊や同時多発火災が発生するなど各県各地において大きな被害が発生したとの想定で、救出救護訓練、広域医療搬送訓練等が実施されました。

消防庁では、政府訓練への参加のほか、地方公共団体とも連携し、消防庁消防防災・危機管理センターにおいて東海地震災害対策本部運営図上訓練を実施するとともに、政府の現地対策本部への派遣訓練として、消防車両により職員を土肥会場へ派遣しました。また、静岡県庁及び浜松市会場にも職員を派遣し、消防防災・危機管理センターとの情報伝達通信訓練を実施しました。

土肥会場には、政府調査団として増田寛也総務大臣のほか、荒木慶司消防庁長官が派遣され、訓練終了後には、増田総務大臣から現地の消防職員及び消防団員に対して激励が行われました。

2. 緊急消防援助隊運用訓練

浜松市の会場では、緊急消防援助隊として参加した福岡市消防局の救助隊と浜松市消防本部との合同訓練が、訓練大綱に基づき実施されました。また、この訓練に際し、消防庁と防衛省が締結している「大規模災害に際しての消防及び自衛隊の相互協力に関する協定」に基づく実動面での検証を行うため、福岡市消防局(福岡県隊)の救助工作車Ⅳ型2台を福岡市の航空自衛隊春日基地からC-130輸送機に積載し、航空自衛隊浜松基地までの輸送訓練を自衛隊の協力の下に実施しました。



増田総務大臣による消防庁消防防災・危機管理センターの視察



AEDの取扱説明を受ける安倍内閣総理大臣



増田総務大臣による激励

(1) 自衛隊輸送機への消防車両積載訓練

航空自衛隊春日基地の駐機場にて、C-130輸送機へ福岡市消防局の緊急消防援助隊車両(救助工作車Ⅳ型



C-130輸送機への消防車両積載訓練

2台)を積載し、離陸しました。約1時間30分のフライト後、航空自衛隊浜松基地に着陸し、消防車両を降機の後には浜松市消防本部の先導により、緊急消防援助隊の進出拠点を経て訓練会場に向かいました。

(2) 受援対応訓練

大規模災害発生時における緊急援助隊の受入れ等を円滑かつ効率的に実施できるよう、緊急消防援助隊と受援側の浜松市消防本部が相互に連携した訓練を実施しました。

(3) 連携救助訓練

地震によりコンクリート造5階建ての建物の4階部分が座屈し、4階及び5階部分に多数の要救助者が発生したとの想定で訓練が実施されました。指揮隊は座屈建物北側駐車場に現場本部を設置、活動方針の下命を受けた緊急消防援助隊(福岡市消防局)は浜松市消防本部隊と連携し、人命検索・救助活動訓練を実施しました。



活動方針の下命を受ける緊急消防援助隊

3. おわりに

このほかにも、9月1日の「防災の日」を中心とする防災週間中に、全国各地で地域の実情に応じ、地震等の大規模災害を想定した訓練が実施されました。地方公共団体の実施状況は、44都道府県、参加団体約2万7,000団体、参加人員約180万人にのぼり、国の関係機関、事業所、地域住民等がそれぞれの役割を確認しつつ連携した訓練が行われました。

平成19年は地震等の自然災害が多発しており、緊急消防援助隊が出動した災害はすでに4件となっています。このことから、消防庁ではこのような訓練を通じて国民の一人ひとりが防災に関する意識を高めることが重要であると考えております。

最後に、このたびの訓練実施に際しまして、ご協力をいただきました各関係機関の皆様には厚くお礼を申し上げます。



はしご車を活用した人命検索



連携した救助活動